

# 常陸大宮市史編さんだより Vol.9



## 「常陸大宮市の市史編さん調査（自然）を始めるにあたって」

茨城生物の会 桐原 幸一（自然部会長）

常陸大宮市は県内で2番目の面積を持つ大きな市です。東は阿武隈山地、北西は八溝山地に囲まれ、東側を久慈川、西側には那珂川が流れています。

一番高い北側の尺丈山（511 m）をはじめ、東側を明山、箆岩山、北西側には鷲子山、小瀬富士、小舟富士、高岩山、南側には山王山が周辺を囲んでおり、標高差は、南側の久慈川沿いの標高が10 mですから、約500 mあります。

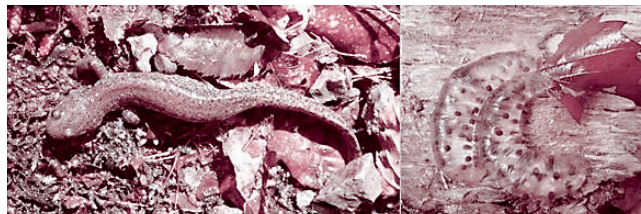
気象も天気予報を注意深く見ていると、隣接する栃木県の子報の方が的確に思えることがあり、常陸大宮市の自然を構成する環境が、変化に富んでいて、複雑であることが実感されます。

また、奥久慈自然公園、御前山自然公園、鷲子山自然環境保全地域などの貴重な自然もあり、こうした自然公園等を挙げるまでもなく、常陸大宮市には貴重な動植物の生息が記録されています。

植物では、イワウチワ、カタクリなど、昔は普通に見ることが出来たものの、今ではすっかり数の減ってしまった種が数多く生育しています。

動物も、ムササビ、オオムラサキなど、昔は身近に見ることの出来た種が、今では姿を見かけることも少なくなってきました。もちろん、陸上の動物だけでなく、久慈川や那珂川には貴重な水生生物が生息したり、遡上したりしています。

今回の春の調査で気付いた貴重な種の例を挙げてみます。それはトウキョウサンショウウオです。



▲ トウキョウサンショウウオとその卵のう

トウキョウサンショウウオは、主に関東地方、特に茨城県の低丘陵地に生息します。私たちが子どもの頃、沢の湧き水が流れる細流で簡単に見つけることができ、ヤマドジョウなどと呼ばれていました。

今回、調査してみると、埋め立てなどで多くの谷津などが失われ、生息場所も個体数もかなり少なくなっていました。この種は茨城県などで減ってしまうと、地球上から消滅してしまうことになります。改めて今回の市史編さんの調査の大切さを感じました。

自然調査ではみなさまの地区に入らせていただきます。気づいたことはお気軽にお伝えください。また、こんな動植物を見たなどの情報を担当事務局にぜひお寄せ下さい。



相川での自然観察会の様子(茨城生物の会)

調査結果は自然観察会などを開催することで、広くみなさまにお知らせしようと考えています。地域の自然やそこに生息する動植物について知っていただき、大切にしていただくことこそが、常陸大宮市の進める郷育立市につながると思います。

■問い合わせ■ 文化スポーツ課 文化・スポーツ G  
電話 52-1111（内線 344）